

令和4年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 附属幼稚園

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程・ 学習指導等	教育課程(保育内容) 事業	① ESDの観点を取り 入れ、グローバル人材 に求められる資質・能 力の基礎を育成する質 の高い教育課程の開 発を進める。 ②グローバルデーでの 異国の文化や言葉に 触れる体験から、国際 理解の素養を養う教育 の実現に努める。	ESDの観点を取り入れ た保育の実施のために 保育指導案の作成及 びエピソードを記録す る。そのためにドキュメ ンテーションやポート フォリオの活用を進め る。	(指標) 園内研究日, 月案検討 日, 職員会議での検討 を行う。保育の記録の 評価(保育者, 保護者) を行う。 (判断基準) ESDの観点を取り入れ た保育記録についての アンケートの肯定的評 価が80%以上。	定期的に園内研究日等を実 施し保育記録のふり返りを実 施した。 定期的な園内研究日等を実 施し保育記録のふり返りを実 施した。フィリピン、ケニア、 ガーナ、メキシコの方によるグ ローバルデー実施(年間14 回)。保育に関する保護者理 解も98%と肯定的評価であっ た。	A	5歳児・8, 9月月間指導計画 の内容を確認したところ、 ESDの観点をもとに計画され ていることがわかった。とても 良いねらいと内容であり、評 価に書かれている子どもの姿 や保育者の援助の仕方によ ってESDの観点を取り入れ た保育の有効性が明らかと なった。 グローバルデーの資料を見る と、他国の人と子どもとの触 れ合いの仕方がとても良く、 子どもの異文化理解や興味・ 関心に繋がっていることがわ かった。	A	次年度もESDの観点をもと に、保育のねらいと内容を明 確にし、子どもの姿や保育者 の援助の仕方によってESDの 観点を取り入れて実施してい く。併せてESDの観点の一つ である、園児、教職員、そし て保護者も文化に触れる機 械を積極的に増やしていく。
			多文化理解に繋がる 活動を積極的に推進 する	(指標) グローバルデーの実施 により多文化理解が深 まる。 (判断基準) 子どもの姿を通して の、保護者の80%以上 の理解があるかどうか。					
教育研究等	研究開発事業	【研究校としての研究 実施・推進と公開】	本年度の研究課題に 沿った研究の取組によ る成果と課題のまとめ、 次年度へ広げる。	(指標) 幼児教育研究会を実 施し、本園の研究実践 のあり方を知ってもら う (判断基準) 研究会の参加者数50 人以上、研究会参加の アンケートで肯定的評 価80%以上。	・研究会参加者114名(対面82 名, オンライン32名)。参加者 に、別紙(資料3-1)のアンケート を行い80%以上で肯定的な評 価を得た。 ・研究報告の内容について「大 変わかりやすい」が44.4%であ ったため、研究内容・図・イラストを 用い簡潔な資料を作成する。 ・大学・附属学校共同研究プロ ジェクトでは、TEA(複線経路等 至性アプローチ)の分析方法を 学び、来年度実施できるよう準 備する。	A	研究主題のキーワードである 「援助しない援助」は独自性 があります。また研究主題設 定の理由がわかりやすく、幼 児教育研究会に参加した 方々によく理解してもらえた。 また研究会参加者が多く、ア ンケート結果も非常に肯定的 な評価が多い。	A	本園の研究実践についてさ らにわかりやすく、結果を「見 える化」できるように工夫をす る。 研究主題「援助しない援助」 について幼児教育研究会に 参加した方々によく理解して もらうように保育実践と結びつ けながら実施する。肯定的な アンケート結果も多いが、そ の中にも保育を変えていく視 点について積極的に取り上 げ考えていく。
			【大学との共同研究を すすめ、教員個々の研 究能力の向上】	大学・附属学校共同研 究プロジェクトや科研 に申請。幼年教育研究 施設との研究をすす める	(指標) 幼年研究教育施設との 共同研究や科研が採 択され、幼児教育の質 向上に努める (判断基準) 科研採択1件。共同研 究のまとめを3月に公 開する。				

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
社会連携・ 社会貢献活動等	社会連携・貢献, 子育て 支援事業	【地域との連携】	地域の小学校との連携 を進める。	(指標) 地域の連携(三ツ城小 学校, 御園宇幼稚園) に入り協議・交流の実 施を行う。 (判断基準)実施した か。	年長児が三ツ城小学校に赴 き相互交流を行った。保護者 から100%の肯定的評価が あった。 来年度も実施予定。	A	三ツ城小学校へ年長児が訪 問し1年生との交流を行うこ とによって、小学校への興味・ 関心が高くなったと考えられ る。 地域との連携を深めるため には、小学校へ訪問するだけ ではなく、附属幼稚園に小学 生に来てもらうのも良い。幼 児との交流をすることによ って、幼児たちは一層自信が 持てるようになるのではない か。	A	三ツ城小学校へ年長児が訪 問し1年生との交流を行うこ とを継続して行っていく。ま た機会をみて小学校児童が 幼稚園を訪問するような活 動も企画していきたい。
		【社会貢献】	国内外の教育関係参 観者に保育・施設の公 開 (動画も含む)	(指標) 国内外の保育関係サ イトに、動画などを提供 する。また教育関係者 の参観希望者に保育・ 施設の公開(アンケート) を実施する。 (判断基準) 参観者の感想や意見 に肯定的評価が80%以 上。	国内外の保育・教育関係者 に保育参観(年間25回)。概 ね肯定的な感想評価を得 た。 今後も保育参観を行う。	A	国内だけでなく、国外の保 育・教育関係者との連携が行 われていることはとても重要。 特に国内外の保育関係サイ トに動画を提供するのは良い 効果がある。引き続き、実践 してほしい。	A	国内だけでなく、国外からの 園訪問を積極的に引き受け て、附属幼稚園の実践を廣 く発信していく。HP、動画 などで実践を広めていき たい。
		【子育て支援】	園庭開放により、地域 の住民, 子育て世帯への 豊かな自然環境で過 せる機会の提供	(指標) 園庭開放の実施(年3 回程度) (判断基準) 園庭開放実施の実績 (参加者数が30人以 上)	園庭開放(年間6回実施)。 参加(53人)。 園の魅力周知のため、園 庭開放を計画実施する。	B	園庭開放が年3回から年6 回に増えたことは良いこと。 今後は、園庭開放のみにと まらず、子育て支援にもう 少し貢献してほしい。	B	園開放については、ニーズ が高いので、今後東広島市 保育課などとも連携しなが ら、増やしていきたい。未 就園児課程だけではなく、 地域の中の幼稚園として 他園所の幼児も使えるよ うな方法を模索していき たい。

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策	
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価		
学校経営・安全管理等	学校運営・改善事業	【幼稚園運営にかかる課題についての整理, 検討, 対応】	学校評議員, 学校関係者評価委員による評価	(指標) 学校評議員会, 学校関係者評価委員会の開催 (判断基準) 各委員の指摘, 評価により, 園の活動に肯定的評価が80%以上。	学校評議員会, 学校関係者評価委員会を開催。委員の指導助言から園の運営体制を見直した。その結果保護者アンケート(全ての項目で95%以上)、教職員アンケートで87%の肯定的評価を得た。					
学校経営・安全管理等	学校運営・改善事業	【幼稚園運営にかかる課題についての整理, 検討, 対応】	内部評価と保護者評価の実施	(指標) 教職員の気づき, 意見が出やすい職場環境の構築を目指す。また保護者アンケートを実施する。 (判断基準) 教職員, 保護者アンケートの肯定的評価80%以上。	これを踏まえ来年度もより充実した運営を行う。	B		保護者アンケートも教職員アンケートも高い評価となっています。また, 広島大学附属学校園評価委員会の改善点に対して, 非常に適切な改善策を考えておられるのがとても素晴らしいです。	A	引き続き, 保護者アンケートや教職員アンケートを行い, 保育の質の向上, 勤務形態の改善に努めていく。また外部評価委員の意見も積極的に取り入れていく。
			危機管理・安全管理意識の向上と関係マニュアルの整備	(指標) 危機管理, 安全管理に関する意識確認, 新型コロナウイルス感染拡大防止の対策 (判断基準) 各訓練, 職員による安全点検の100%実施。マニュアルの改善, 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の見える化をHPに公開	各訓練(火災, 地震, 土砂災害, 引き取り, 不審者)を計画的に実施。行方不明児対応訓練を新たに実施。安全点検の回数を月2回に増やした。		A	危機管理等の様々な訓練が行われていること, 行方不明児対応訓練を新たに実施されたことは高く評価します。附属幼稚園は, 大学との繋がり, 地域との繋がり, 異国との繋がり等に取り組んでいるだけでなく, 研究に取り組んでいることが, 教員の方にとってかなりの負担になると思いますが, それでも超勤が増えないようにされていることを高く評価します。これまでも安全環境整備に関して頑張られてきたことと思います。今後も引き続き, 実施をお願いします。	A	さまざまな事態が想定される危機管理であるが, 不審者侵入だけではなく, 自然災害, 幾重不明者の対応などのことも想定に入れた訓練を適切に実施していく。
			教職員の適正な労働環境の見直し・改善	(指標) 適正な勤務時間の厳守, 面談を適宜行う。 (判断基準) 個々の超勤が月に38時間以内を80%以上。	引き続き, 安全について計画的に点検および, 園舎内の安全環境整備等を実施する。個々教員の超勤は38時間以内が95%。引き続き超勤が増えないように気をつけていく。					
		【基盤整備】	保育活動が安全でかつ効果的に実践できるよう, 必要な施設や環境の整備に努める。	(指標) 園舎内の安全環境整備の確認 (判断基準) 各活動の計画的な実施について教職員アンケートで肯定的評価80%以上。						附属学校部と連携しながら, 園内外の危険な箇所などの有無を定期的に点検し, 問題があれば至急対応するようにする。

注) 太枠内は, 学校関係者評価委員会が記入する。